

2月4日は「二十四節気」の「立春」に当たります。

「冬至」と「春分」の中間点です。

一年で最も寒い時期である「大寒」から、いきなり「春」になるのは少々違和感があるのですが、「寒さが極まり底をつけば、そこから後は暖かくなっていく」という「陰陽五行説」によれば、「最も寒いときに春が生まれる」ということになるのですね。

太陽の光は冬至から少しずつ長くなっており、日の出は8分早く(7:02 6:54)なただけですが、日の入りは38分も遅く(16:52 17:30)なっていますので、確実に大地は暖められてきていると思います。

そして、生きものたちも、この大地の変化を感じ取りながら、春に向けての準備を進めているのでしょね。

みんなが待ち焦がれている「春の兆し」を感じさせてくれるのは、この頃からさえずり始める「ウグイス」、そして日本近海に大群でやってくる「ニシン」などで、それぞれ「春告鳥」(はるつげどり)、「春告魚」(はるつげうお)と呼ばれています。

(近年、ニシンの漁獲高が減少したために、「メバル」を春告魚と呼ぶようになってきましたが...)

また、「春告花」は「ウメ」、「東風吹かば 匂ひおこせよ 梅の花 主なしとて 春な忘れそ」と、太宰府に左遷される菅原道真が詠んでいますね。

ちなみに「東風」(こち)も春を告げるものとして、皆が待ち焦がれていたものの一つですが、暖かな春の風は「東」からではなく「南」から吹いてくるのではないのでしょうか？

どうやら、中国で親しまれる「陰陽五行説」では、春は東を司ることから春風のことを「東風」と呼ぶのだそうです。

### 写真 ~ : ムモンホソアシナガバチ

木の根元付近でじっとしていました。

成虫で越冬しているので、これは「新女王バチ」だと思いますが、このような寒風をまともに受けるところで冬を乗り切るのは難しいでしょう。

日が射して暖かだったので、木のうるなどで越冬していた個体が目覚めて飛び出してきたのでしょうか。

### 写真 : アカガエルの卵塊

アカガエルの産卵が始まりました。

雨の降る夜に産卵することが多いようですので、2月1日の夜間に産卵したものかも知れません。(この写真は2月2日に岬町で撮影しました)

産卵したのが「ニホンアカガエル」なのか「ヤマアカガエル」なのかは、写真では判断できません。

### 写真 : セイヨウミツバチ

### 写真 : オオハナアブ

肉食の「スズメバチ」や「アシナガバチ」は、「新女王バチ」だけが越冬するのですが、写真・の種は越冬中の「働きバチ」でしょうね。(2/2に岬町で撮影)











